



第19回キッズデザイン賞受賞 総合遊具「SAPIENCE」アフォーダンス研究調査

株式会社ジャクエツ（本社：福井県敦賀市／代表取締役社長：徳本達郎）と東京大学名誉教授佐々木正人氏の研究チームが行った『総合遊具「SAPIENCE」アフォーダンス研究調査』が特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催(後援：経済産業省・内閣府・消費者庁・こども家庭庁)の「第19回キッズデザイン賞」を受賞しました。

SAPIENCE(サピエンス)は踊り場がなく、決まった遊び方がない、異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶことができる遊具で、子どもたちが自由にあそびを創造しコミュニケーションをとることができます。この遊具についてアフォーダンスの視点から観察、分析を試みることで、子どもの成長を支えるあそびの環境デザインの可能性を提起します。



▲研究調査の様子。

【調査の背景と概要】

2016年、ジャクエツは生態心理学の専門家チームと共に、抽象的なデザイン遊具を対象に「子どもはどのようにあそびを見出すのか」を明らかにする研究を実施しました。そして2024年、同チームにより総合遊具「SAPIENCE」を対象とした新たな調査を実施。決められた出入り口のない螺旋構造や揺れるネットを備えた“21世紀の樹木”ともいえる遊具において、子どもたちの想定以上の多様な遊びが観察されました。本研究は既存の遊具では生まれにくい創造的な行動の可能性を可視化し、子どもの成長を支える環境デザインに新たな視点を提示するものです。

【課題へのアプローチ】

- ・遊具「SAPIENCE」における子どもの行為の多様性や協働的な遊びをアフォーダンスの観点から分析。
- ・遊びの現場における即興性・創発性を捉えることを目的とした調査。
- ・生態心理学の専門家チームが、カメラを用いた定点映像観察とアフォーダンス理論を用いて調査記述を実施。

【実績・ユーザーの評価・エビデンス】

設置園では、子どもたちが即興的にあそびを発明し、友達と共に空間を探索する姿が多数観察されました。観察記録や映像分析により、身体運動・社会的相互作用・創造性が豊かに引き出されることが確認され、今後の園庭設計への応用に向けて期待が寄せられています。

【株式会社ジャクエツ】

1916年創業。「未来は、あそびの中に。」をスローガンに掲げ、企画・コンサルティングから設計、施工、運営管理まで、地域社会や施設の課題解決に向けたサービスをワンストップで提供する。近年は包括連携協定の締結やPark-PFI事業への参入など、あそびの視点を活かしたまちづくりに取り組む。質の高いあそびの環境をデザインすることで、子どもたちの成長とともに大きく花開いていく「未来価値」を創造し続ける。

【お問い合わせ】

株式会社ジャクエツ

東京都港区高輪4丁目24-50

TEL:03-3442-2260／FAX:03-3442-2261

MAIL:press@jakuets.co.jp

広報担当者にご連絡ください。